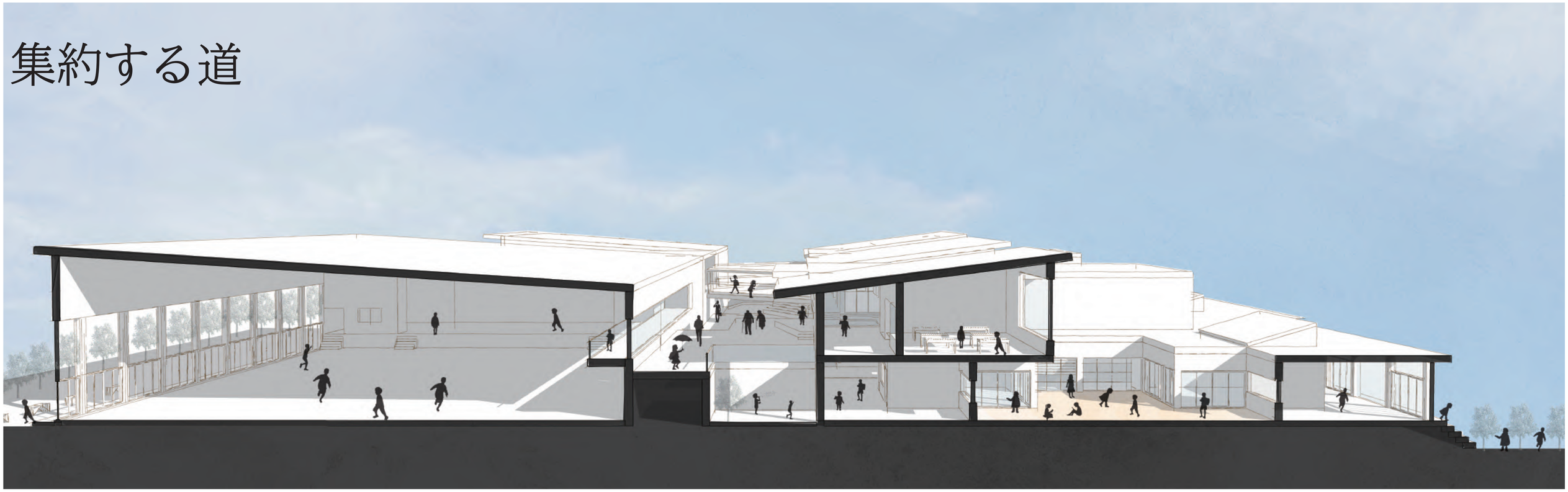
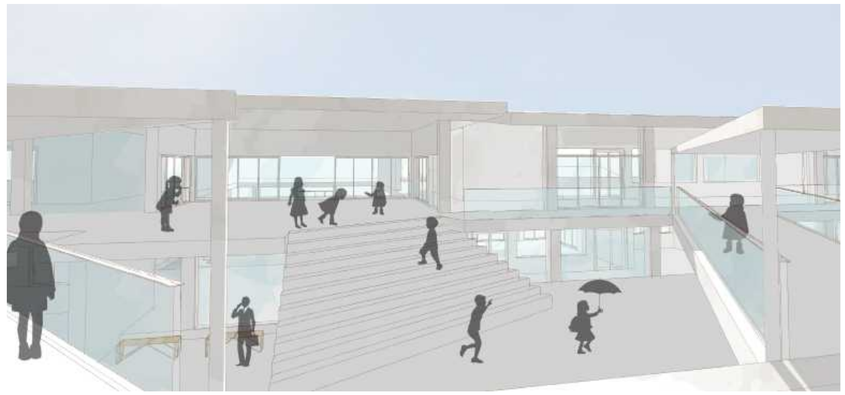
集約する道



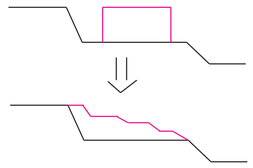


【地域に開く小学校】

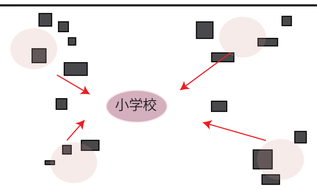
敷地は静岡県の南部、御前崎市の浜岡に位置する。この地域は近年、高齢化が進んでおり、それに伴う人口密度の低下が目立つ。敷地周辺も人口密度が低く、周りには誰の敷地かも分からないような草の生え茂った土地が幾つもあり、とても静かで寂寞とした状態にある。そんな浜岡に小学校という新たなシンボルを与える。子どもの利用だけでなく、地域の人々も利用できるような地域開放型の小学校を建築した。具体的には、地域の人々も常時利用できる道を敷地内に設け、その両脇に小学校や図書館、多目的ホールなどを配置した。道からは小学生が活動している様子を覗くことができ、賑やかなで楽しそうな景色を目にすることができる。

【それぞれの居場所】

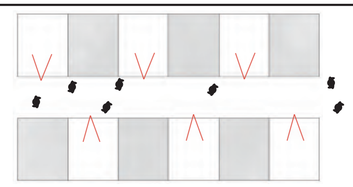
この小学校には約 300 人もの生徒が毎日登校してくる。子どもたちにとって小学校はただ勉強をするだけの場ではない。1 日の大部分を過ごす生活の場でもある。生徒が求める生活の送り方はそれぞれで違い、他学年との交流を求める子もいれば、2,3 人のグループでの活動を求める子、またひとりで静かに過ごしたい子もいる。この小学校はその全ての生徒が心地よく生活できるよう様々な居場所をつくっている。そのなかで生徒は自分に合った居場所を見つけ、自分に合った生活を送る。



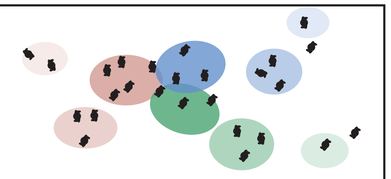
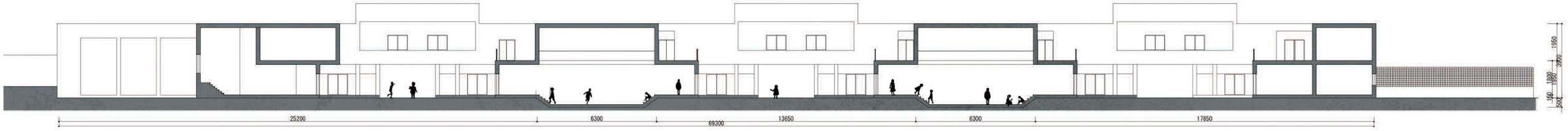
敷地周辺は西から東へと流れる傾斜地となっいる。敷地はその傾斜の途中にあるため、敷地の東側と西側とではかなりの高低差がある。敷地内で高低差を細分化することで、建築を傾斜地に馴染ませると同時に、今までは断ち切れられていた東西の関係性を緩やかにをつなぐ。



敷地周辺は、人口密度が低く住居が点々としているだけである。交流を生む施設などもないため、コミュニティが育まれず、ご近所つきあい程度が限界である。分散された小さなコミュニティを集約する新たな集いの場として地域開放型の小学校を計画した。



小学校は敷地内に設けた道の両脇に建っている。この道は常時、地域に開放しており、地域の人も自由に行き来することができる。
また、道には小学生の生活や地域の人々の活動が映り、道を抜ける過程で様々な風景を目にすることができる。



小学校は 6 歳から 12 歳と幅広い年齢層の子どもが利用する施設であり、そのひとりひとりの居場所を確保する必要がある。集団の規模をレベル分けし、それぞれに活動場所を与えることで、居場所にバリエーションを持たせた。生徒は自分に合った居場所を見つけて生活する。